

Egmont Cycling Race Women 2026/8/18

順位：66位

全日本選手権で2連覇を果たし、再びナショナルチャンピオンジャージを着用して臨むヨーロッパでのレース。前回の渡欧時とはまた違った気持ちで、今回の遠征をスタートしました。

今回の遠征初戦となった「Egmont Cycling Race」は、多くのワールドツアーチームが出場する、これまで経験した中でも特にレベルの高いUCIレースでした。

8月は夏季休暇の時期ということもあり、沿道には多くの観客が集まり、出場選手も多く、春先のレースとはまた違った緊張感のある雰囲気でした。

コースは1周約25kmを5周する約130km。石畳や、ベルギー特有の道路中央にある溝など、テクニカルな区間も多いコースでした。

レース序盤からワールドツアーチームを中心に激しいアタックが繰り返され、集団前方20番手以内で走っていなければ、コーナーのたびに約1分間の全力走行を強いられるような厳しい展開となりました。

そのため、レース後半の勝負どころで力を発揮するためにも、前半から良い位置をキープすることが重要でした。自分自身も集団前方で位置取りをすることができ、積極的にレースに対応しました。

しかし、人数と足を揃えているワールドツアーチームに対して、単独で対抗することの難しさも感じました。

レース中盤には3名の逃げが形成され、集団はそれを容認する形となり、タイム差は最大で約1分まで広がりました。逃げ集団にはワールドツアーチームが1チームしか入っていなかったため、数名で追走するチャンスがあると判断し、自ら追走アタックを仕掛けました。

結果的には単独での追走となりましたが、可能な限りタイム差を縮めようとブリッジを試みました。しかし、なかなかタイム差を縮めることができず、最終的には集団へ戻ることを選択しました。

その直後に大きな落車が発生し、粉々になった自転車が自分の方向へ飛んでくる場面もありましたが、なんとか回避することができました。

その後、集団のペースが一気に上がり、しばらくは先頭集団の後方で粘ることができましたが、テクニカルなコーナーのたびに集団の中切れが発生し、最終的には第2集団での追走となりました。

最終結果は完走となりましたが、今回のレースを通して、ワールドツアーチームが多数出場する大きな集団の中でも、自分から積極的に動き、レースを展開できたことは大きな収穫でした。

結果だけを見ると満足できるものではありませんでしたが、これまで以上に高いレベルのレースで積極的に動けたことは、次戦に向けて大きな自信につながりました。

今回得た経験を次のレースにつなげ、さらに高いレベルで戦えるよう、一戦一戦成長していきたいと思います。

Konvert Kortrijk Koerse 2026/8/21

順位：55位

Egmont Cycling Raceから3日後に行われた「Konvert Kortrijk Koerse」も、多くのワールドツアーチームが参加する非常にレベルの高いUCIレースとなりました。

このレースは道幅の狭い区間が多く、さらに当日は雨という難しいコンディションでした。そのため、レース序盤からポジション争いが激しくなり、積極的に逃げを作る動きが頻繁に起こることが予想されました。

そこで、スタート直後からできるだけ集団前方に位置することを意識しました。これまでのレースでも強みとしてきた位置取りを活かし、スタートから集団の先頭付近をキープすることに成功しました。

すると、前方でアタックがかかった瞬間に迷うことなく反応。アタックに合わせて前に出たことで、自分を含む3名の逃げを形成することができました。

その後は3名で協力しながら逃げを続け、レース中盤まで先頭でレースを進めました。ワールドツアーチームが多数参加するレースの中で、自分からアタックに反応し、実際に逃げを形成できたことは、大きな自信につながりました。

今回のコースは、約40kmの大きな周回を2周した後、約9kmの小さな周回を6周するレイアウトでした。そのため、前半の大きな周回を逃げ集団で走れたことで、集団の中で頻繁にポジションを上げ下げする必要がなく、コーナーの立ち上がりなどで無駄な力を使うことを抑えることができました。

また、コースには石畳の区間もあり、雨によって路面が非常に滑りやすくなっていました。特に集団で走る場合は、わずかなブレーキやラインの乱れが落車につながる危険なコンディションでした。

そのような状況でも、これまで培ってきたバイクコントロールの技術を活かし、石畳でもバイクを安定させながら走ることができました。無理にバイクを抑え込むのではなく、路面の状況に合わせてラインを選び、スムーズに走ることを意識したことで、難しいコンディションでも余裕を持ってレースを進めることができました。

小さな周回コースに入ってから集団のペースが一気に上がりましたが、前半を逃げで走っていたことで、コーナーの立ち上がりなどで余分な力を使わずに済み、ペースアップにも余裕を持って対応することができました。

そして、レース終盤。残り2周に入るとさらに雨が強くなり、サングラスを着用していても前がほとんど見えないほど視界が悪化しました。直線区間でも落車が相次ぎ、非常に危険

な状況となりましたが、慎重にラインを選びながら走り、落車に巻き込まれることなく先頭集団でレースを続けることができました。

残り1kmも先頭集団で通過し、最後の勝負へ。最終コーナーでは少し位置を下げてしまい、そこからの残り500mのスプリントには絡むことができませんでした。

最終結果としてはスプリント争いに加わることはできませんでしたが、今回のレースでは、ワールドツアーチームが多数参加する中で自ら積極的に動き、実際に逃げを形成してレースを展開することができました。

また、雨や滑りやすい石畳といった難しいコンディションの中でも、自分のバイクコントロールを活かして安全かつ安定して走れたことも大きな収穫でした。

そして何より、ナショナルチャンピオンジャージを着て逃げ集団で長い時間レースを走れたことは、自分自身の存在をヨーロッパのレースでアピールする大きな機会にもなりました。

結果だけではなく、自分からレースを動かすことができたという意味で、非常に納得のいく一戦となりました。この経験を次のレースにつなげ、さらに高いレベルで勝負できる選手を目指していきたいと思います。

Zottegem - Erwetegem 2026/8/31

順位：10位

およそ2週間ぶりとなったレースは、女子クラブチームによるシリーズ戦のクラブレースでした。これまで主にUCIレースを走ってきましたが、今回はクラブチームのみが参加するレースということで、個人の結果だけでなく、チームとしてレースを動かし、結果につなげることが求められるレースでした。

コースは1周約10kmを9周するレイアウトで、細かいアップダウンが連続するコースでした。また、レース途中にはスプリントポイントが設けられており、対象となる周回ではフィニッシュラインを通過した上位3名にポイントが与えられるルールでした。

レース当日は今回も雨となり、ウェットコンディションでのレースとなりました。このレースは例年、逃げが決まるとそのまま逃げ切りでゴールする展開が多いため、今回も序盤から逃げを狙う選手によるアタックが繰り返されました。しかし、今年はどのアタックも集団に吸収され、逃げが形成されないままレースが進んでいきました。

自分自身も何度かアタックを仕掛け、逃げを作るために動きましたが、決定的な動きにはつながりませんでした。また、シリーズリーダーを抱えるチームが集団をコントロールしていたため、他チームが積極的にレースを動かすことが難しい状況でした。

ゴール地点が石畳となっていたこともあり、レース途中のスプリント周回では集団のペースが上がることで隊列が縦に伸び、逃げにつながる可能性がありました。そのため、自分もスプリント周回では集団前方に位置し、積極的にペースアップを行って逃げを作る動きをしました。しかし、最後まで逃げが容認されることはなく、集団のまま最終周回へ入りました。

最終周回では集団スプリントに備えて位置取りを意識して動き、最終コーナーを抜けた後のゴールスプリントでは、集団前方からスプリントを開始しました。その結果、10位でフィニッシュすることができました。

スプリンターの多いベルギーのレースでトップ10に入ることができたことは、今後のレースに向けて大きな自信となりました。また、これまでのレースで経験してきたゴールスプリントでの位置取りを実際のレースで生かし、結果につなげることができた点も大きな収穫でした。

今回のレースで得た経験を次のレースにも生かし、さらに上位を目指していきたいと思います。

Muur Classic Geraardsbergen 2026/9/2

順位：30位

今シーズン、ヨーロッパでの最後のレースは、「MUUR」と呼ばれるクラシックレースでも有名な坂を含むUCIレースでした。

MUURは石畳の坂で、平均勾配8%、最大勾配12%と、パワーだけでなく石畳を走るテクニックも求められる厳しい登りです。

今回のコースは全体的に道幅が狭く、集団の中で後ろに位置していると、登りで前の選手から遅れてしまい、登りを終えた後に追いつくためにさらに脚を使わなければならないという状況が繰り返されるコースでした。

今シーズン、ヨーロッパで数多くのUCIレースを経験する中で、特に登りのあるレースでは、登りで集団に残るためには「登りに入ってから頑張る」のではなく、登りに入る前にできるだけ前方までポジションを上げておくことが重要だと学んできました。

今回はさらに、登りそのものが石畳だったため、集団は普段以上に縦長になることが予想されました。後方にいると、登りで遅れるだけでなく、登り切った後の下りでも前の集団に追いつくために大きく脚を使うことになります。

そのため、レース中はいつも以上に緊張感を持ち、常に集団前方に位置することを意識して走りました。

そのポジショニングが功を奏し、最終周回のMUURに入るまでは集団前方に残ることができました。そして、最終周回の登りに入ると、一気に集団のペースが上がりました。

厳しい登りによって集団はあっという間に分裂し、いくつもの小集団が形成されました。先頭はUCIチームの選手5名、その後ろに約20名の追走集団ができる展開となりました。

自分は登りを終えたところで、追走集団から約10秒遅れた位置にいました。しかし、ここで追いつかなければ、追走集団に戻ることは難しくなります。

そこで、全力で前を追いました。すると後方から1人の選手が合流し、2人で協力しながら追走集団を追いました。そして、なんとか追走集団に復帰することができました。

前方には先頭集団が見えていましたが、そこにはUCIチームの選手たちが逃げている状況でした。そのため、クラブチーム所属の自分たちは、お互いに協力して前を追う必要がありました。

しかし、追走集団内ではクラブチームの選手同士の思惑が噛み合わず、前を追うことに積極的ではない選手もいました。そのため、最終的には自分を含めた3人で前を追わなければならない、かなりの脚を使うことになりました。

そしてゴールまで残り500mの最後の登りでは、スプリントに加わるだけの力を残すことができず、最終的なスプリント争いに加わることはできませんでした。

それでも、MUURという厳しい石畳の坂を含むレースで、最後まで先頭集団でゴールすることができたことは、大きな収穫でした。今シーズン、ヨーロッパで数多くのレースを経験する中で培ってきた、登りに入る前のポジショニングや集団内での走り方を、今回のレースでもしっかりと発揮することができた結果だと思います。

これで、今シーズンのヨーロッパ遠征はすべての日程を終えました。

ヨーロッパで多くのUCIレースを経験し、レース展開やポジショニング、集団の中での動き方など、これまで以上に多くのことを学ぶことができました。

次はいよいよ帰国後のアジア大会です。

ヨーロッパで積み重ねてきた経験をすべて生かし、メダル獲得に向けて最後まで集中して挑んでいきたいと思います。

